

コンニャク 2 種の開花記録

高井敦雄

2013年6月にゾウコンニャク (*Amorphophallus paeoniifolius*)、7月に名前不詳のコンニャク (*Amorphophallus sp.*) の2種が開花したので報告する。

ゾウコンニャクが2012、2013年と連続して開花した。国内では、富山中央植物園、福岡市植物公園、東山植物園などで開花例があるが、同じ塊茎から2年連続で開花するのは珍しいと思われる。2012年3月に塊茎2つを導入（重量は2つとも約5kg）し、直径58cm（容量80ℓ）と直径60cm（容量80ℓ）の鉢に植え付けた。その年の初夏に2つとも開花し、その後展葉、冬に休眠に入った。休眠時に植え替えを実施できなかったため、1作経過後の塊茎重量は把握できなかった。その後、2鉢のうちの1鉢（直径58cm鉢）で花芽が現れ、6月に2年連続の開花となった（写真1）。今回の開花では、花の大きさは直径約36cm、高さ40cmであった。6月10日（月）

16時頃から臭い始め、10m離れた所くらいまでは、臭いを感知できた。多い時には5匹のハエが集っていた。翌日朝には、ほとんど臭わなかった。花は開花5日後には色褪せたが、何とか17日（日）まで観賞できた。

Amorphophallus sp. も2012年3月に苗を導入し、すぐに直径35cm（容量12.5ℓ）の鉢に鉢増しを行った。翌春に休眠し、その年（2013年）の6月9日に植え替えを行った。植え替え時の塊茎の重量は340gであった。直径60cm（容量80ℓ）の鉢に植え付け、その月の下旬には花芽が現れた。花茎の伸長スピードは表1のとおり。7月13日夕方から臭い始めたが、ゾウコンニャクほどの強い臭いは感じなかった。花茎は最も長い時点で153cmに達した。仏炎苞の大きさは、長さ33.5cm、巾9cm、付属体の大きさは、長さ44.5cm、巾3cmであった（写真2、3）。仏炎苞は、上端が茶色地に緑が混じったような色、そのほかは緑地に茶色がまだらに入ったような色であった。付属体は薄茶色であった。観賞期間は、ゾウコンニャクと同様5日程度であった。本種については、現在同定を導入元に依頼中である。



写真1. ゾウコンニャク (*Amorphophallus paeoniifolius*) の花



写真2. *Amorphophallus sp.* の花

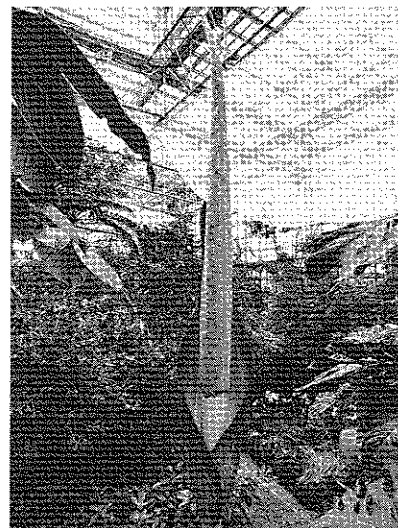


写真3. *Amorphophallus sp.* の付属体付近の拡大写真

表1. *Amorphophallus sp.* の花茎長の推移

月 日	6月29日	7月1日	2日	3日	4日	7日	9日	10日
長さ (cm)	13.5	20	24.5	31	37	68.5	101.5	115.5
月 日	7月11日	13日	15日	17日	21日	22日	24日	
長さ (cm)	126.5	142.5	149.5	151.5	153	152.5	147.5	

注1：計測は8：30～9：00に行った

注2：22日より付属体が曲がり始めた